

官民連携により空港一帯を脱炭素化

脱炭素先行地域に関する連携協定締結

町は12月24日、県、西鉄自然電力合同会社、西部ガス株式会社、西部ガス熊本株式会社、株式会社肥後銀行、株式会社熊本銀行の7者で「阿蘇くまもと空港周辺地域RE100産業エリアの創造」に関する連携協定を締結しました。

この協定に基づき、上記7者の共同出資による「くまもと地域みらいエネルギー株式会社」を設立。新会社は協定団体と連携して再生可能エネルギーを活用し、電力消費に伴う二酸化炭素排出量ゼロを目指します。



県庁で行われた連携協定締結式(©2010年熊本県くまモン)



機内から見える絶景スポットを紹介する増田さん

パイロットのお仕事ってすごい！

お仕事講座・阿蘇くまもと空港見学

1月18日、「お仕事講座・阿蘇くまもと空港見学」が開催され、町内小中学生・保護者48人が参加しました。

この講座では、町と連携協定を締結している日本航空株式会社のパイロット、増田寛さんが講師を務め、国際線パイロットとしての経験を交えながら、その職務内容を詳しく解説しました。

空港見学では、通常立ち入ることのできない区域も案内され、参加者たちは、「飛行機を初めて近くで見た」、「将来パイロットになりたい」などの感想を熱く語りました。

皆さまに支えられて堂々の一等賞！

第68回熊本県広報コンクール

第68回熊本県広報コンクールの広報紙町村部において、「広報ましき」が特選(町村1位)に選ばれ、県広報協会賞を受賞しました。受賞作品である8・9・10月号の中から、9月号を全国広報コンクールへ出品します。

今回の受賞は、本紙に関わってくださった皆さんのひたむきな活動やがんばっている姿を、紙面の魅力へとつなげることができた証であると考えています。今後も『「あなた」と「まち」と、心つながる情報発信』をモットーに、町民が主役となる広報紙作りを続けてまいります。



取材や投稿でご協力いただいた人々、読者の皆さまに大感謝！



熊本の食を全国に届ける拠点として

株式会社マイシンと立地協定締結

町は12月13日、食肉卸事業、食品製造・販売事業などを行う株式会社マイシン(熊本市)と立地協定を締結しました。

同社は、10月に企業版ふるさと納税による寄付を通じて町に貢献されています。今後、小池地区で食肉加工・レトルト食品製造工場の建設工事に着手する予定で、令和7年度には事業開始を見込んでいます。

また、業務の効率化を図るため、工場の新設に合わせて町内に本社を移転する計画も進めています。



協定書を掲げる㊦岸口俊浩代表取締役



協定書を掲げる㊦三嶋代表取締役

注目を集める半導体産業で町を活性化

株式会社テクノクリエイティブと立地協定締結

町は12月20日、システム開発やインフラ基盤構築、機械類や生産装置の設計開発・製造を行う株式会社テクノクリエイティブ(熊本市)と立地協定を締結しました。

協定に際し、三嶋一秀代表取締役は、「世界的に高まる半導体需要や脱炭素への取り組みに対応する他、地域経済の発展にも尽力したい」と、意気込みを述べました。

同社は今後、小谷地区のDPIシリコンヒルズ熊本において、半導体関連装置の製造・組立等工場の建設工事に着手し、令和8年度に事業開始を予定しています。

ますます深まる小学生の国際交流

津森小と大甲国民小学校のオンライン交流

津森小と台湾の大甲国民小学校によるオンライン交流が12月20日に実施されました。

3回目となった今回の交流では、お互いに「クリスマスプレゼントで欲しいもの」をテーマに発表。津森小児童は、この日のために自らタブレットで作成した発表資料を活用し、英語で発表しました。

質問コーナーでは、流行しているハンバーガーやゲームの話題で盛り上がり、すっかり打ち解けた児童たちは、最後に笑顔で記念撮影を行いました。



㊦タブレットを活用して英語で発表する津森小児童

㊦リコーダー演奏を披露する大甲国民小学校児童



全国初となる「くまモンマンホール」を設置しました！ 益城町の「益」をイメージした背景から、くまモンがひょっこり顔を出す愛らしいデザイン。これらは広崎地区・熊本県道高森線沿いの歩道に10カ所あります。ぜひ皆さんで探してみ、日常生活の中で当たり前となっている「下水道」に改めて興味を持っていただけると嬉しいです。